



長嶋茂雄 追悼展

ミスタージャイアンツ 不滅の背番号3

2026年5月12日(火)～5月25日(月)

天満屋 福山店 7階大催場

昭和・平成の時代を通じて日本のプロ野球界をけん引し続けた長嶋茂雄は、「我が巨人軍は永久に不滅です」「メーク・ドラマ」「勝つ！勝つ！勝つ！」などの名言とともに、数々の名場面を私たちの記憶に刻みました。野球を国民的スポーツとして根付かせたその功績は、スポーツの枠を超えて多くの人々に影響を与えました。

2025年6月3日、89年の生涯を閉じた長嶋。その偉大な足跡を振り返る展覧会を開催いたします。本展では、写真や映像、ゆかりの品々を通して長嶋茂雄の軌跡をたどります。また、数々の名言や各界との交流などを通じて、広く国民に愛された「ミスター」の人柄と魅力を紹介いたします。

第1章〈～1958年〉

燃える男 スター誕生

佐倉一高、立教大学での東京六大学リーグ新記録となる8号本塁打などの活躍を経て、1958年に巨人軍に入団。一気にスターダムにのし上がっていく背番号「3」の姿を追います。



↑明石キャンプで練習中の巨人軍・長嶋選手(1958年)

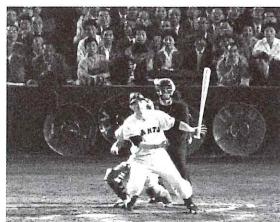
第2章〈1959～1974年〉

栄光の背番号3

天覧試合でのサヨナラ本塁打により、長嶋は国民的スターに。現役時代の17年間で巨人は13回のリーグ優勝と11回の日本一を記録。1974年に引退。38歳の若さで巨人軍監督に就任しました。



「巨人軍は永久に不滅です」の名言を残した引退セレモニー(1974年)

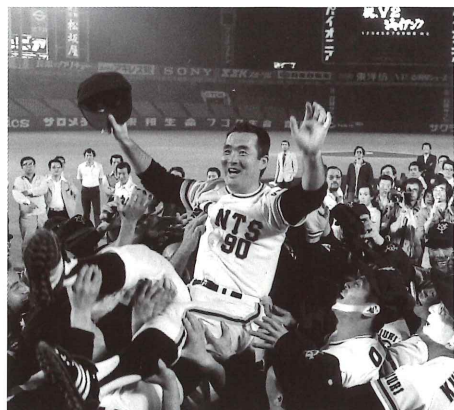


←天覧試合でのサヨナラ本塁打(1959年)

第3章〈1974～1980年〉

屈辱を土台に

背番号「90」の監督初年度は球団史上初の最下位に終わったものの、翌1976年にはリーグ優勝を達成します。1980年に3年連続で優勝を逃した責任をとり、監督を辞任。監督としての苦闘と歓喜を振り返ります。



↑V2を達成し、無観客の後楽園球場で長嶋監督を胴上げする巨人ナイン(1977年)

第4章〈1981～1992年〉

充電の旅

監督引退後は、エチオピアの難民キャンプ訪問や五輪取材など、野球以外の活動に精力的に取り組んだ長嶋。1992年秋に監督復帰が決まり、松井秀喜をドラフト1位で獲得。以後、長く続く師弟関係がスタートしました。



↑解体目前の後楽園球場で名残を惜しむ長嶋(1987年)

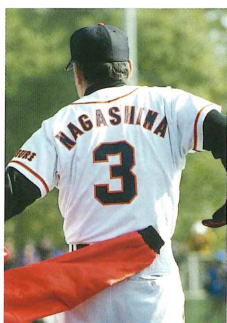


↑巨人入団が決まり、対談する長嶋監督と松井選手(1992年)

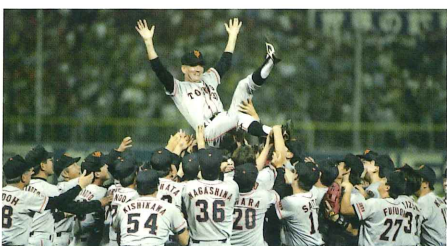
第5章〈1993～2001年〉

燦燦と輝く

1993年に背番号を現役時代の「3」を重ねた「33」に変更。1994年にはリーグ優勝、日本一に輝きました。2000年に背番号「3」に戻し、2度目の日本一に。二度目の退任までの燦然と輝く監督としての功績を称えます。



←宮崎キャンプでグラウンドコート脱ぎ、背番号3を披露する長嶋監督(2000年)



↑リーグ優勝を決め、巨人ナインに胴上げされる長嶋監督(1994年)

第6章〈～2025年〉

ミスターを全うする

2002年に野球日本代表監督に就任しましたが、2004年に脳梗塞で倒れ五輪で指揮を執ることはできませんでした。しかし野球と巨人軍を愛する「ミスター」の姿は変わることなく、2013年に国民栄誉賞、2021年には野球界で初となる文化勲章を受章しました。



↑「長嶋茂雄DAY」の特別試合に登場した松井秀喜、長嶋、阿部慎之助監督(2024年)